

第 149 期中間期 事業活動のご報告

Table of Contents

代表取締役 CEO メッセージ	3
特集: 大きな価値をもたらす可能性を持つ 6 つの後期開発パイプライン	3
2025 年度上期の業績について	6
主要な 6 つのビジネス領域に関する業績アップデート	6
2025 年度 業績予想およびマネジメントガイダンス	7
2025 年度の株主向け WEB アンケートご協力のお願い	7
<i>Reference</i>	8
重要な注意事項	9

代表取締役 CEO メッセージ

株主の皆さまへ

2025 年度は、当社にとって、将来の持続的成長の原動力となる、後期開発パイプラインの進展と、新製品の上市準備を進める極めて重要な年です。

2025 年度上期には、2 つの後期開発パイプラインについて、非常に良好な第 3 相臨床試験のデータを発表しました。ひとつは希少な血液がんであり、生命を脅かす心血管系や血栓性のイベントのリスクを高める真性多血症に対する rusfertide です。もうひとつは日中の過度な眠気や夜間の睡眠分断などを引き起こす神経疾患であるナルコレプシータイプ 1 に対する oveporexton です。これらのパイプラインは、今年度中に規制当局への承認申請を予定しており、承認されれば、患者さんに新たな治療選択肢を提供できる可能性があります。さらに、経口チロシンキナーゼ 2(TYK2)阻害薬である zasocitinib についても、今年度末までに乾癬を対象とした 2 つの第 3 相臨床試験の結果を発表できる見込みです。

Rusfertide、oveporexton および zasocitinib は、既に上市および商業化に向けた準備が進行中であり、これらも含めた 6 つの後期開発パイプラインは、合計で 100 億米ドルから 200 億米ドルのピーク時売上高ポテンシャルを秘めており、当社の事業にとって大きな成長機会となる可能性を示しています。

また、当社は社内外のイノベーションを通じて、研究開発パイプラインのさらなる強化・拡充にも継続的に取り組んでいます。この取り組みの一環として、最近発表した Innovent Biologics 社との戦略的グローバルパートナーシップでは、オンコロジー領域における非常に有望な後期開発段階の 2 つのプログラムに関するライセンス、および早期段階プログラムの 1 つで独占的ライセンスオプションが含まれています。これらの進展は、当社の長期的な成長軌道と、人々に革新的な医薬品をお届けするという当社のコミットメントを強化するものです。

2025 年度下期に向けて、当社は引き続き事業の進展に全力で取り組み、財務目標の達成と、後期開発パイプラインの可能性に自信をもっています。また、これにより、患者さんと株主の皆さまに意義ある価値を創出してまいります。最後に、来年 6 月に私の退任に伴い就任を予定しているジュリー・キムへのリーダーシップの移行についても、順調に進んでいることをお伝えしたいと思います。この協調的な移行によって、事業の継続性が保たれ、最終的には未来に向けた歩みが加速するものと考えています。

当社を代表して、皆さまの継続的なご支援に感謝申しあげます。

武田薬品工業株式会社
代表取締役社長 CEO
クリストフ・ウェバー

特集: 大きな価値をもたらす可能性を持つ 6 つの後期開発パイプライン

2025 年度は当社にとって前例のないスピードと規模でイノベーションを追求し、変革をもたらす年となります。世界中の患者さんに新たな治療選択肢を届けるため、私たちは 6 つの後期開発パイプラインプログラムの進展に注力し、その上市に向けた投資を加速させています。

当社では、近い将来上市が期待される有望な後期開発段階のプログラムが豊富に揃っており、これらのプログラムのうち、下期には rusfertide および oveporexton の規制当局への承認申請、ならびに zasocitinib の第 3 相臨床試験結果の公表が予定されています。

この進展は、新たに革新的な治療法を患者さんに届ける可能性をもたらし、当社の成長戦略の根幹として、ヘルスケアの未来を切り拓くという私たちの取り組みを体現しています。

以下の 6 つの後期開発パイプラインはそれぞれ、患者さんの生活の改善に大きく貢献する可能性を秘めています。私たちは疾患に対する専門的な知見と患者さんのアンメットニーズに応えるという使命に基づき、それ

ぞれの疾患における標準治療を再定義することを目指しています。

以下が当社の後期開発パイプラインです。

*これらのパイプラインは現在研究開発が進行中であり、承認を受けている国はありません。

oveporexton

開発を進めている適応症：ナルコレプシータイプ1(NT1)

アンメットニーズ

- NT1は脳内のオレキシンニューロンが減少することで引き起こされる希少な慢性神経疾患です。
- 現在の治療方法は NT1 の根本原因となるオレキシン欠乏を標的に設計されておらず、治療中の患者さんを対象とした調査では、回答者のうち 80%以上が残遺症状を訴えました¹。
- オレキシン神経ペプチドは、睡眠覚醒関連疾患やオレキシンのシグナル伝達の関与によって引き起こされる他の疾患において重要です。
- NT1 患者さんは、日中の過度の眠気、夜間の睡眠分断、幻覚、睡眠麻痺、情動脱力発作(カタプレキシー)などの症状により日常生活で影響を受けています²。

特徴

- Oveporexton は、湘南の研究所で生まれ、研究開発が進められている NT1 の根本原因となるオレキシン欠乏を標的に設計された経口オレキシン2受容体作動薬です。
- 2つの第3相臨床試験において、すべての主要評価項目および副次評価項目を達成し、すべての用量群における症状全般について、12週時点でプラセボと比較し統計学的に有意な改善を示しました。同時に、これまでのすべての試験でも示された通り、概ね良好な忍容性を示しました。
- これらの結果は、oveporexton が標準治療を変革する可能性を示しています。

rusfertide

開発を進めている適応症：真性多血症(PV)

アンメットニーズ

- 希少な血液がんである PVにおいて、ヘマトクリット(HCT:赤血球の割合)は、45%未満であることが推奨されています。これを超えると血栓塞栓性の心血管疾患や血栓による死亡リスクが約4倍になるものの³、実臨床データによると患者さんの 78%が HCT のコントロール不良⁴といわれています。
- PV の患者さんは、鉄欠乏状態であり、日常生活や作業の生産性に大きな影響がおよんでいます⁵。

特徴

- Rusfertide は迅速、安定的かつ持続的に 45%未満の HCT を実現し、治療の各段階で使用される薬剤になると想定されており、PV 治療において、単剤療法としても既存治療との併用療法としてもさまざまな段階で使用されることを目指しています。
- 第3相臨床試験では主要評価項目および副次評価項目を達成し、安全性プロファイルも概ね良好であることが示されています。

zasocitinib

開発を進めている適応症：尋常性乾癬・乾癬性関節炎、潰瘍性大腸炎・クローン病、尋常性白斑および化膿性汗腺炎

アンメットニーズ

- 最初の適応症として承認を目指している尋常性乾癬は身体的にも心理的・社会的にも大きな負担を伴う疾患であり、患者さんの生活のあらゆる側面において影響を与える可能性があります^{6,7}。
- 乾癬性関節炎に見られる慢性的な炎症は、適切に管理されない場合、不可逆的な構造的損傷を引き起こす可能性があり、進行とともに著しい身体的障害をもたらすことがあります。これにより、患者さんの生活の質に影響を及ぼすことがあります^{8,9,10}。
- 乾癬、乾癬性関節炎においては、複数の治療選択肢があります。そのなかでも、利便性が高く、安全で

有効性の高い経口治療剤へのアンメットニーズが存在します。

特徴

- Zasocitinib は、研究開発が進められている高い選択性を持つ次世代の経口 TYK2 阻害薬であり、24 時間にわたり IL-23 およびそのほかの免疫シグナル伝達を減弱させます^{11,12,13}。
- 尋常性乾癬と活動性の乾癬性関節炎を対象とした第 2b 相臨床試験の結果において、概ね良好な有効性とバランスのとれたベネフィットリスクプロファイルを示し^{12,14}、臨床的エビデンスがさらに強化されました。

mezagatamab

開発を進めている適応症:IgA 腎症および免疫性血小板減少症 (ITP)

アンメットニーズ

- 近年の治療の進歩にも関わらず、現在承認されている IgA 腎症の治療薬の多くは、病気の根本的なメカニズムを標的としておらず、多くの患者さんが進行性の腎機能低下のリスクにさらされています¹⁵。
- ITP では、利用可能な治療法があるにもかかわらず、多くの患者さんが依然として疾病による負担を抱えており、持続的な効果や生活の質の改善が限られているため、より効果的で忍容性の高い治療法へのニーズが報告されています¹⁶。

特徴

- Mezagatamab は、自己免疫性疾患の根本原因に対処し、有効性・安全性のバランスの取れたプロファイルを有する革新的な治療薬となる可能性を秘めています。
- Mezagatamab での治療対象として最適な疾患を優先しつつ、IgA 腎症および ITP 以外の適応症を含めて可能性を模索していく予定です。

elrittercept

開発を進めている適応症:骨髄異形成症候群 (MDS) に伴う貧血

アンメットニーズ

- MDS は、血液細胞の産生が不十分であり、しばしば重度の貧血を引き起こし、患者さんの健康と生活の質 (QOL) に大きな影響を与えます。
- 患者さんの 40% は 1 次治療の赤血球造血刺激因子で奏効せず、1 年以内に進行します。また、後方治療ラインにおける患者さんの大部分に重い輸血負担があります¹⁷。

特徴

- 造血の初期から後期にわたって作用するメカニズムを有しており、低リスク MDS の幅広い層の患者さんに対する治療薬となる可能性があります¹⁸。
- 幅広い層の患者さんにおける持続的かつ長期的な有効性と概ね良好な忍容性を備えた安全性プロファイルにより、ベストインクラスとなる可能性を秘めています。

fazirsiran

開発を進めている適応症: α -1 アンチトリプシン欠乏症肝疾患 (AATD-LD)

アンメットニーズ

- AATD-LD は希少な遺伝性疾患で、線維化、肝硬変、肝細胞がんにつながることがあるものの、承認された治療薬はありません。
- 現在の唯一の疾患管理における選択肢は、生活習慣の改善と肝疾患の終末期に限られる肝移植のみです。

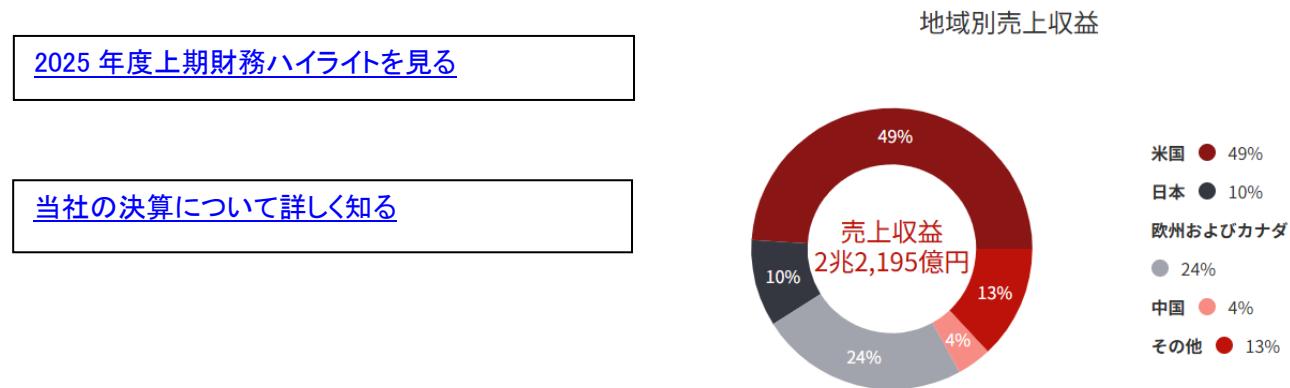
特徴

- AATD-LD の適応症を有する初の治療薬として fazirsiran の開発は順調に進捗しています。

2025 年度上期の業績について

2025 年度上期の業績は、VYVANSE®(国内製品名:ビバンセ® 一般名:リスデキサンフェタミンメシル酸塩)の後発品による大きな影響を反映していますが、事業運営における効率化により、Core 営業利益への影響は一部相殺されています。下期に向けては、血漿分画製剤を含む成長製品・新製品*の成長率向上と、VYVANSE の影響が前年同期比で減少すると見込まれることなどにより、事業ダイナミクスの好転が見込まれます。財務ベース営業利益は、第 2 四半期に細胞療法の取り組み中止を決定したことに伴う無形資産の減損損失を反映しています。

*成長製品・新製品および国際会計基準(IFRS)に準拠しない財務指標の定義については、武田薬品の [2025 年度第 2 四半期投資家向けプレゼンテーション](#) のスライド 8 および A-1 ページをご覧ください。



主要な 6 つのビジネス領域に関する業績アップデート

2025 年度上期における成長製品・新製品の売上収益は、1 兆 1,430 億円で、恒常為替レート(CER: Constant Exchange Rate)ベースで+5.3%の成長となりました。

2025 年度上期における成長製品・新製品の売上収益は、1 兆 1,430 億円で、恒常為替レート(CER: Constant Exchange Rate)ベースで+5.3%の成長となりました。

消化器系疾患領域の売上収益は、6,928 億円(CER ベース:+3.2%成長)となりました。潰瘍性大腸炎(UC)・クローム病治療剤 ENTYVIO®(国内製品名:エンタイビオ 一般名:ベドリズマブ)は CER ベースで+5.1%成長しました。米国において、ENTYVIO は炎症性腸疾患(IBD)に対する治療薬として患者シェア第 1 位を維持し*、UC およびクローム病に対する唯一の腸管選択的治療薬です。

また、好酸球性食道炎の治療薬である EOHLILIA®(一般名:ブデソニド経口懸濁液)は CER ベースで+98.4%成長し、2024 年 2 月の上市以来、患者さんからの需要は増加しています。

*米国における患者シェア – IQVIA

希少疾患領域の売上収益は、3,805 億円(CER ベース:+0.7%)となりました。CER ベースで+5.9%成長した、遺伝性血管性浮腫治療剤 TAKHZYRO®(国内製品名:タクザイロ 一般名:ラナデルマブ)は世界規模で持続的に成長しており、現在、グローバルで約 6,700 人の患者さんの治療に使用されています。CER ベースで+47.7%成長した臓器移植(造血幹細胞移植を含む)における既存の抗サイトメガロウイルス療法に難治性のサイトメガロウイルス感染症治療薬である LIVTENCITY®(国内製品名:リブテンシティ® 一般名:マリバビル)は、米国での順調な市場浸透とともに、最近では日本での上市や中国での保険償還医薬品リストへの掲載といった急速な地理的拡大に支えられています。

血漿分画製剤領域の売上収益は、5,174 億円(CER ベース:+0.4%)となりました。

出荷時期と期ずれの影響を受け、免疫グロブリン製剤は CER ベースで+3.1%成長、アルブミン製剤は CER ベースで 2.4%減少となりました。需要は引き続き堅調であり、CER ベースで一桁台半ば%という血漿分画製剤ポートフォリオの通期成長見通しに変更はありません。

オンコロジー(がん)領域の売上収益は、2,878 億円(CER ベース:+3.4%)となりました。オンコロジーポート フォリオの成長は、これまでに 30 力国以上で承認されている FRUZAQLA®(国内製品名: フリュザクラ® 一般名: フルキンチニブ)をはじめとする主要な製品によって牽引されました。FRUZAQLA の主な成長要因として、転移性大腸がんにおける化学療法以外の新たな治療選択肢に対する需要があります。また、ADCETRIS®(国内製品名: アドセトリス® 一般名: ブレンツキシマブ ベドチン)(CER ベース:+11.5%)はホジキンリンパ腫の1次治療における継続的な使用拡大が寄与しました。

ワクチン領域の売上収益は、317 億円(CER ベース:△16.8%)となりました。

デング熱ワクチン QDENGA®▼(4 価弱毒生デング熱ワクチン)は、世界的な需要が引き続き堅調です。現在 31 力国で接種可能であり、これらの市場での接種対象の拡大および接種率の向上と地理的拡大が今後の成長を牽引する見込みです。その他のワクチンの売上減少は、主に日本における COVID-19 ワクチンの供給減少によるものです。

ニューロサイエンス(神経精神疾患)領域の売上収益は、2,061 億円(CER ベース:△32.1%)となりました。減収は主に 2023 年 8 月より米国において VYVANSE® の独占販売期間満了による影響を受けたためです。米国における 2025 年度上期売上収益は後発品の供給拡大に伴い CER ベースで△57.7%減少しました。米国以外の主要な市場において VYVANSE の独占販売期間満了による影響を受けている国はカナダ、ブラジル、ドイツです。

2025 年度 業績予想およびマネジメントガイダンス

当社は、通期業績予想および Core 営業利益と Core EPS のマネジメントガイダンスを修正しました。この修正は、ENTYVIO や VYVANSE の売上高予想の引き下げによる影響、無形資産の減損損失、取引通貨に係る為替(transactional FX)によるマイナス影響、および税率の上昇を反映しており、営業経費管理によるコストの削減がこれらを一部相殺しています。マネジメントガイダンスの修正は、主に取引通貨に係る為替(transactional FX)によるマイナス影響を反映したものであり、製品構成の悪化影響は、想定を上回る営業経費の削減効果により完全に吸収される見込みです。

[2025 年度通期マネジメントガイダンスについて見る](#)

[2025 年度業績予想について見る](#)

2025 年度の株主向け WEB アンケートご協力のお願い

当社は、株主の皆さまからの貴重なご意見・ご要望を、コミュニケーション活動の参考としております。2025 年度の株主向け WEB アンケートは、2025 年 11 月 29 日～12 月 19 日まで実施します。多くの株主の皆さまのご協力ををお願い申しあげます。

アンケートの回答には、株主番号の入力が必要となります。株主番号は、中間配当金計算書の右上に印字(8 桁)されています。

[アンケートご回答はこちら](#)

Reference

1. Y. Dauvilliers et al, Burden of Illness Study Among Patients with Central Disorders of Hypersomnolence, EAN, 2024
2. Maski K, et al. J Clin Sleep Med. 2017;13(3):419-425. doi: 10.5664/jcsm.6494; US FDA. Narcolepsy & Idiopathic Hypersomnia FDA Patient-Led Listening Session Summary Report
3. Verstovsek S, et al. Ann Hematol 2023 Mar;102(3):571-581
4. Kaifie A, et al. J Hematol Oncol 2016;9:18.
5. Mesa R, et al. BMC Cancer 2016;16,167.
6. Strober B, Greenberg JD, Karki C, et al. Impact of psoriasis severity on patient-reported clinical symptoms, health-related quality of life and work productivity among US patients: real-world data from the Corrona Psoriasis Registry. BMJ Open. 2019 April 20; 9(4):e027535. doi: 10.1136/bmjopen-2018-027535.
7. AlQassimi S, AlBrashdi S, Galadari H, et al. Global burden of psoriasis - comparison of regional and global epidemiology, 1990 to 2017. Intl J Dermatol. 2020 May; 59(5):566-571. doi: 10.1111/ijd.14864.
8. American College of Rheumatology. Psoriatic arthritis. Available at: <https://rheumatology.org/patients/psoriatic-arthritis>.
9. Mease P, Strand V, Gladman D. Functional impairment measurement in psoriatic arthritis: Importance and challenges. Semin Arthritis Rheum. 2018;48(3):436- 448. doi: 10.1016/j.semarthrit.2018.05.010.
10. Merola JF, Ogdie A, Gottlieb AB, et al. Patient and physician perceptions of psoriatic disease in the United States: Results from the UPLIFT survey. Dermatol Ther (Heidelb). 2023;13(6):1329-1346. doi: 10.1007/s13555-023-00929-9.
11. Mehrotra S, Sano Y, Halkowycz P, et al. Pharmacological Characterization of Zasocitinib (TAK-279): An Oral, Highly Selective and Potent Allosteric TYK2 Inhibitor. J Invest Dermatol. 2025 May 27:S0022-202X(25)00531-7. doi: 10.1016/j.jid.2025.05.014.
12. Armstrong AW, Gooderham M, Lynde C, et al. Tyrosine Kinase 2 Inhibition With Zasocitinib (TAK-279) in Psoriasis: A Randomized Clinical Trial. JAMA Dermatol. 2024 Oct 1;160(10):1066-1074. doi: 10.1001/jamadermatol.2024.2701.
13. Leit S, J, Greenwood Carriero S, et al. Discovery of a potent and selective tyrosine kinase 2 inhibitor: TAK-279. J Medicinal Chemistry. 2023 Aug 10;66(15):10473-10496. doi: 10.1021/acs.jmedchem.3c00600
14. Kivitz A, Baraliakos X, Muensterman ET, et al. Highly selective tyrosine kinase 2 inhibition with zasocitinib (TAK-279) improves outcomes in patients with active psoriatic arthritis: a randomized phase 2b study. Ann Rheum Dis. 2025 Oct;84(10):1660-1674. doi: 10.1016/j.ard.2025.05.023
15. Disease, Kidney, et al. "KDIGO 2025 Clinical Practice Guideline for the Management of Immunoglobulin A Nephropathy (IgAN) and Immunoglobulin A Vasculitis (IgAV)." Kidney International 108.4 (2025): S1-S71.
16. Bussel, James B., et al. "The Lack of Tolerable Treatments Options That Can Induce Durable Responses without Fear of Relapse after Discontinuation Represents a Significant Unmet Need for Patients (Pts) with Immune Thrombocytopenia (ITP): Results from the ITP World Impact Survey (I-WISH) 2.0." Blood 142 (2023): 1212.

17. Internal estimates based on exhaustive Literature review

18. Diez-Campelo,et al/ ASH. 2023

重要な注意事項

将来に関する見通し情報

本報告書及び本報告書に関する配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む武田薬品の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする(targets)」、「計画する(plans)」、「信じる(believes)」、「望む(hopes)」、「継続する(continues)」、「期待する(expects)」、「めざす(aims)」、「意図する(intends)」、「確実にする(ensures)」、「だろう(will)」、「かもしれない(may)」、「すべきであろう(should)」、「であろう(would)」、「かもしれない(could)」、「予想される(anticipates)」、「見込む(estimates)」、「予想する(projects)」、「予測する(forecasts)」、「見通し(outlook)」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の結果は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の結果とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国的一般的な経済条件並びに国際貿易関係に関する状況を含む武田薬品のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、税金、関税その他の貿易関連規則を含む関連法規の変更、臨床的成功及び規制当局による判断とその時期の不確実性を含む新製品開発に内在する困難、新製品及び既存製品の商業的成功の不確実性、製造における困難又は遅延、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念、新規コロナウイルス・パンデミックのような健康危機、温室効果ガス排出量の削減又はその他環境目標の達成を可能にする武田薬品の環境・サステナビリティに対する取り組みの成功、人工知能(AI)を含むデジタル技術の統合をはじめとする、業務効率化、生産性向上又はコスト削減に向けた武田薬品の取り組み、その他の事業再編に向けた取り組みが、期待されるペネフィットに寄与する程度、武田薬品のウェブサイト(<https://www.takeda.com/jp/investors/sec-filings-and-security-reports/>)又はwww.sec.govにおいて閲覧可能な米国証券取引委員会に提出したForm 20-Fによる最新の年次報告書並びに武田薬品の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本報告書に含まれる、又は武田薬品が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本報告書における武田薬品の経営結果及び情報は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

財務情報及び国際会計基準に準拠しない財務指標

武田薬品の財務諸表は、国際会計基準(以下、「IFRS」)に基づいて作成されております。本報告書及び本報告書に関する配布された資料には、Core 売上収益、Core 営業利益、Core 当期利益、Core EPS(親会社の所有者帰属分)、CER(Constant Exchange Rate・恒常為替レート)ベースの増減、純有利子負債、調整後純有利子負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリー・キャッシュ・フロー、調整後フリー・キャッシュ・フローのように、IFRSに準拠しない財務指標が含まれています。当社経営陣は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本報告書に含まれるIFRSに準拠しない財務指標に基づいて行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、最も良く対応するIFRS財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュ・フロー項目を除外しております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません(IFRSに準拠する財務指標を「財務ベース」指標として参照している場合があります)。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、その定義と、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との調整表について、2025年度上期の投資家向け決算プレゼンテーション資料に添付の「財務補足資料」をご参照くださいますようお願い申しあげます。

ピーク時売上高想定

本報告書で言及されるピーク時売上高の範囲は、技術的および規制上の成功確率を考慮して調整されていない推定値であり、予想または目標とみなされるべきではありません。これらのピーク時売上高の範囲は、将来起こりうるとは限らないさまざまな商業的シナリオについての武田薬品の評価に基づきます。

医療情報

本報告書には、製品に関する情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

Innoven Biologics 社とのライセンスおよび提携契約

本取引の完了には、規制当局の承認など、一般的な取引完了条件を満たす必要があります。武田薬品は、取引が完了するまで後期開発段階の 2 つの治療薬候補に対する権利を有さず、さらに初期開発段階の治療薬候補については、オプション行使まで権利を有しません